

● おわりに ●

～医療従事者の方々へのメッセージ～



本書はそもそも、医師の先生方からの要望で執筆しました。先生方曰く、医師をはじめ医療従事者のほとんどの方は、ヒヤリハットやインシデントを経験したことがあるとのことでした。さらに、不運にも事故が発生し、患者さんとトラブルになることも少なくないとうかがいました。前半の章で記載しましたとおり、トラブルになったとしても、病院側と患者側との間の交渉で和解が成立する機会が多いため、実際、我々医療弁護士がお手伝いする案件よりはるかに多いトラブルが実臨床で発生していると想定されます。そのようなトラブルの際に、どのように対処すれば良いかわからない、そもそもトラブルを起こさないためには何に気を付ければ良いかわからない、という声を多数伺いました。こうした声に応えるべく、医療従事者の方々を読みやすく、わかりやすい医療訴訟の解説本として本書を製作しました。

本書を読み進めていただいたことで、1章において医療訴訟における裁判所の考え方を、2章のケーススタディにおいて実際の医療訴訟でどのような判断がされているのかを、それぞれ確認することができたかと思います。ケーススタディで取り上げた事案の判決はいかがでしたか。「このような事案でも病院側敗訴になってしまうのか・・・」と判決結果に驚かれたものもあったのではないのでしょうか。

最善の診療を行っていても、事故やアクシデントの発生は避けられないものだと思います。事故やアクシデントによるトラブルから医療訴訟に発展しないために普段から注意すべき点や、トラブルに対応するに当たって気を付けるべき点については、3章に詳しく記載しています。3章の内容について「普段から実施している。当たり前のことである」と感じられた方もいらしたかと思いますが、やはり「患者さんや家族に対して丁寧な説明を行う」ことができているか否かが、医療訴訟への発展を防ぐ上で重要なポイントとなっている点は再確認していただきたいと思います。この点について普段からきちんと対応されている方においては、事故やアクシデントが発生しても医療訴訟に発展することはほとんどないかと思います。本書が今後の診療に役立つことを切に願っています。

栗野 公一郎